

活動の評価【有形効果】 R7.3月分処方数集計

備北地区・地域フォーミュラリ

No.1: (高血圧症)アンギオテンシンII受容体拮抗薬
(ARB)

No.2: 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB)

No.3: HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン)

2023(令和5)年9月～

No.4: α -グルコシダーゼ阻害薬(2型糖尿病用)

No.5: 第2世代抗ヒスタミン薬

No.6: 消炎・鎮痛剤(内用剤)

2023(令和5)年12月～

No.7: 口腔領域小手術後の抗菌薬

No.8: 経口ビスホスホネート製剤

No.9: ヘルペス治療薬

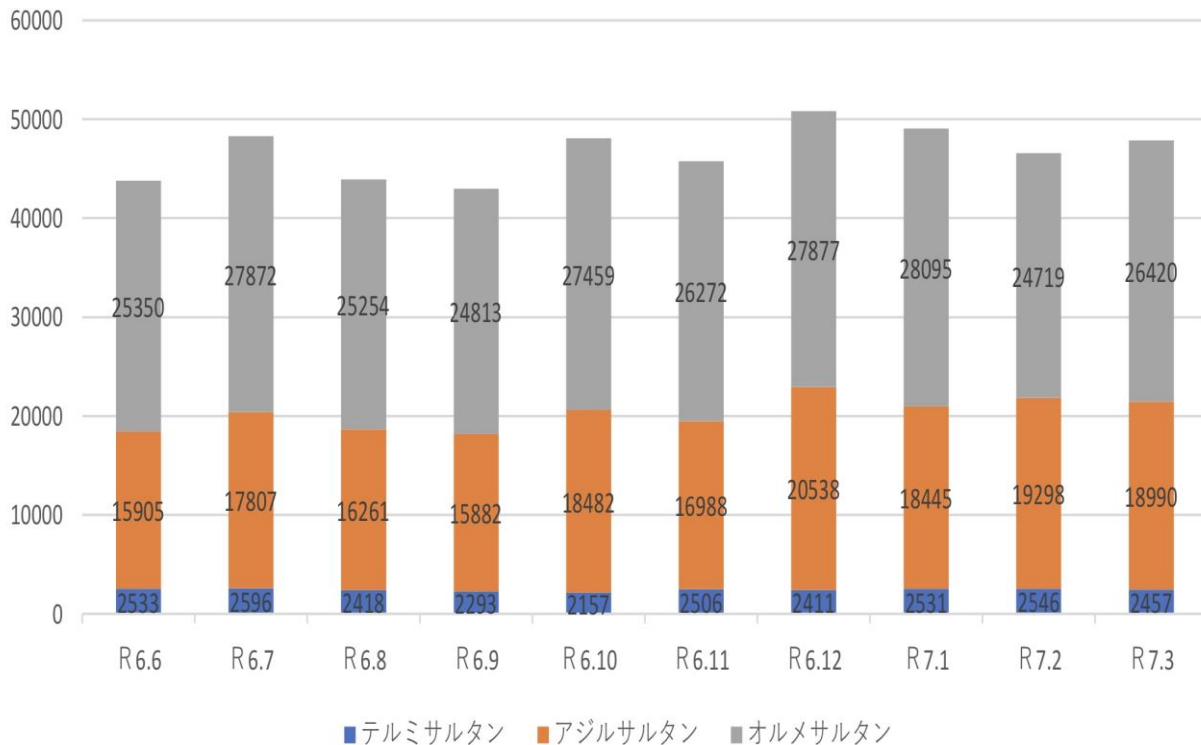
2024(令和6)年6月～

ARB アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬処方数比較(4病院)

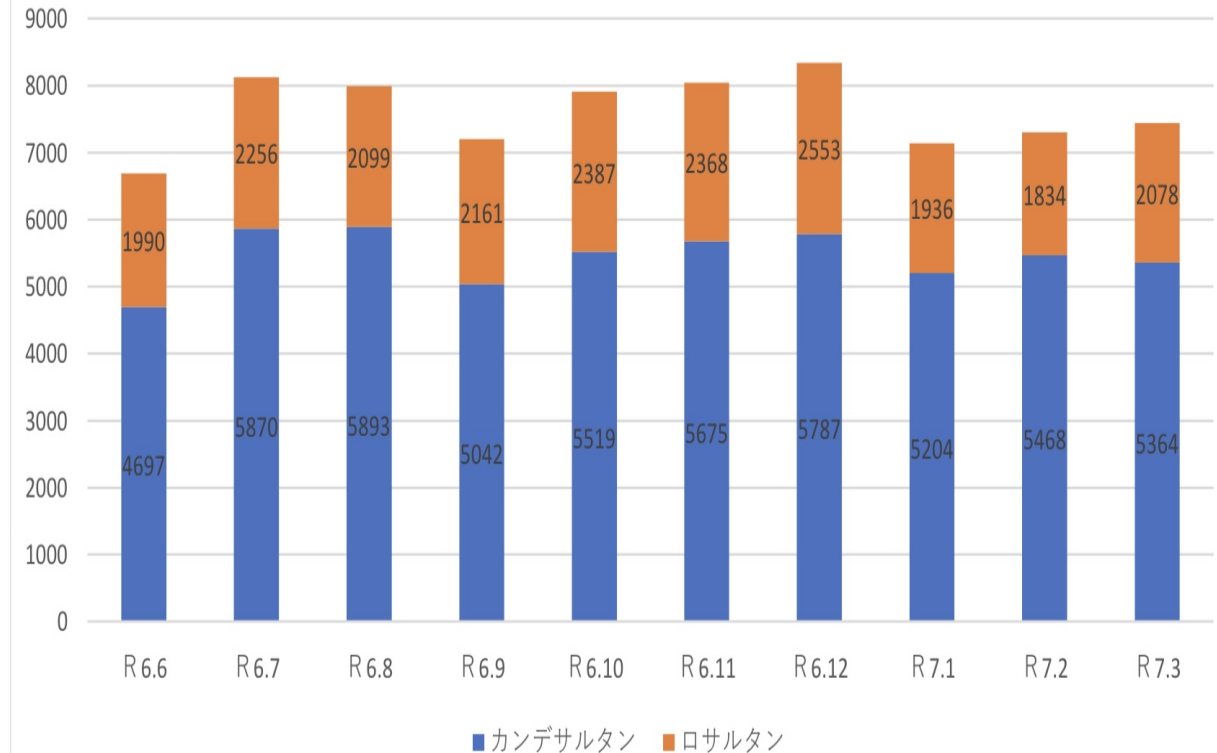
2025年3月処方集計 (4病院)

ARB	各病院コメント
三次中央	ARBに関しては、引き続きアジルサルタン錠20mgの増加傾向が見られました。
三次地区医療センター	アジルサルタン増加、オルメサルタン・テルミサルタン・オプション減少。 総数は減少しましたが、推奨薬の比率は上昇していました。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	テルミサルタンは減少していますが、アジルサルタン、オルメサルタンは増加しています。

推奨薬



オプション薬



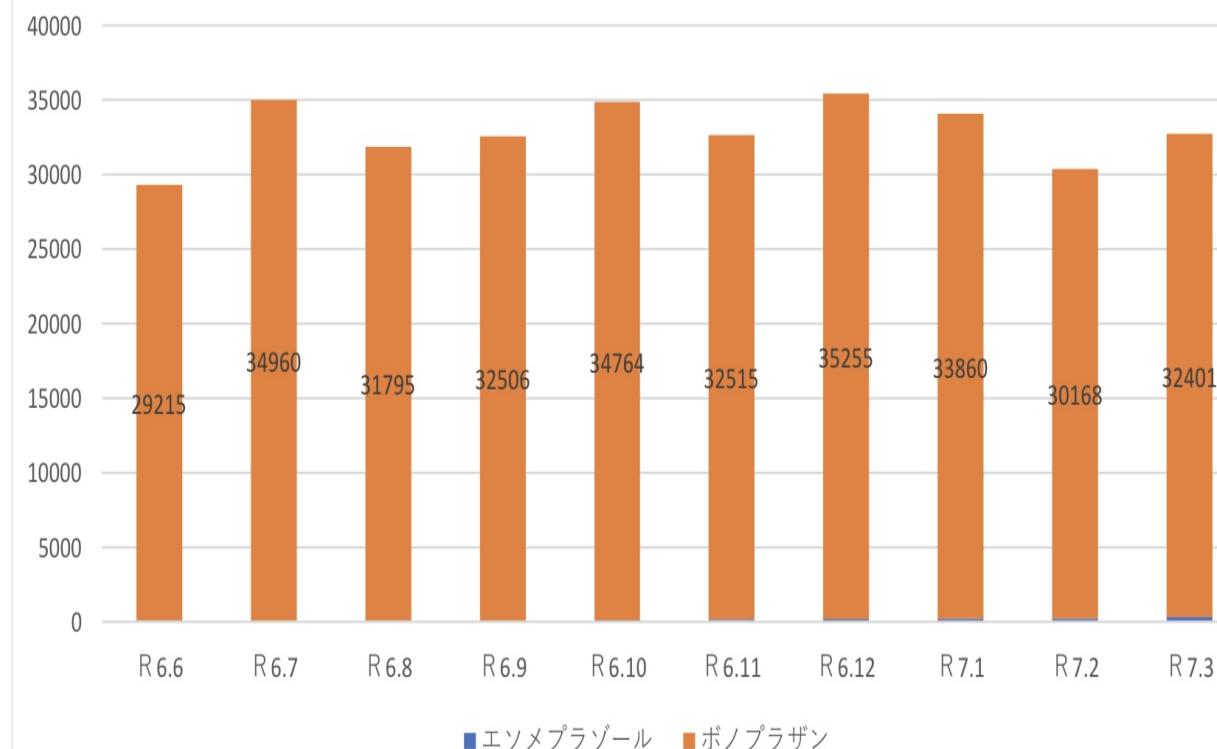
PPI.P-CAB 経口分泌抑制剤処方数推移(4病院)

PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	PPIに関しては、緩やかではありますがエソメプラゾールカプセル20mgが微増していました。
三次地区医療センター	エソメプラゾール・ボノプラザンが大きく増加、ラベプラゾール大きく減少。 総数は先月とほぼ変わらずも、推奨薬の比率は低下しました。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬もオプション薬も増加しています。

推奨薬



オプション薬



地域フォーミュラリに明記している内容「ボノプラザンの治療は限定的」を医局会で周知

※**ボノプラザン**は、消化性潰瘍診断ガイドライン2020でヘリコバクター・ピロリの一次除菌治療では、その除菌率の高さ、治療効果(制酸効果)の高さから使用が推奨されている。

また胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン2021では重症逆流性食道炎の初期治療として使用することを提案されているが、**限定的な患者への使用**と考えられ、薬価も他剤と比較して高額であることから推奨薬とせずオプションとした。また、ボノプラザンは英国および米国で販売されていない。

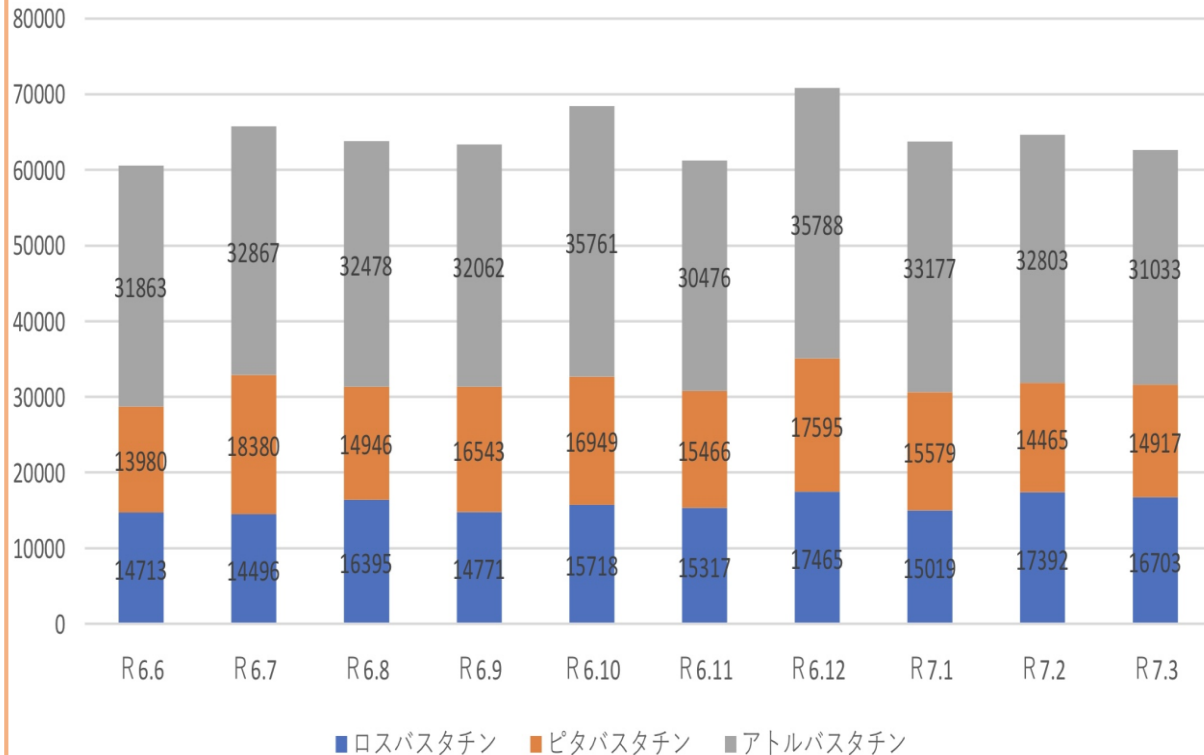
2. 薬価比較

一般名	ランソプラゾール		ラベプラゾール		エソメプラゾール		ボノプラザン
製品名	GE	タケプロン (先発)	GE	パリエット (先発)	GE	ネキシウム (先発)	タケキャブ (先発)
1日薬価 (標準投与量)	20.8~ 36.0円 (30mg)	39.7円 (30mg)	20.3~ 32.3円 (10mg)	43.6円 (10mg)	41.8円 (20mg)	CAP:69.7円 顆粒:93.9円 (20mg)	144.8円 (20mg)

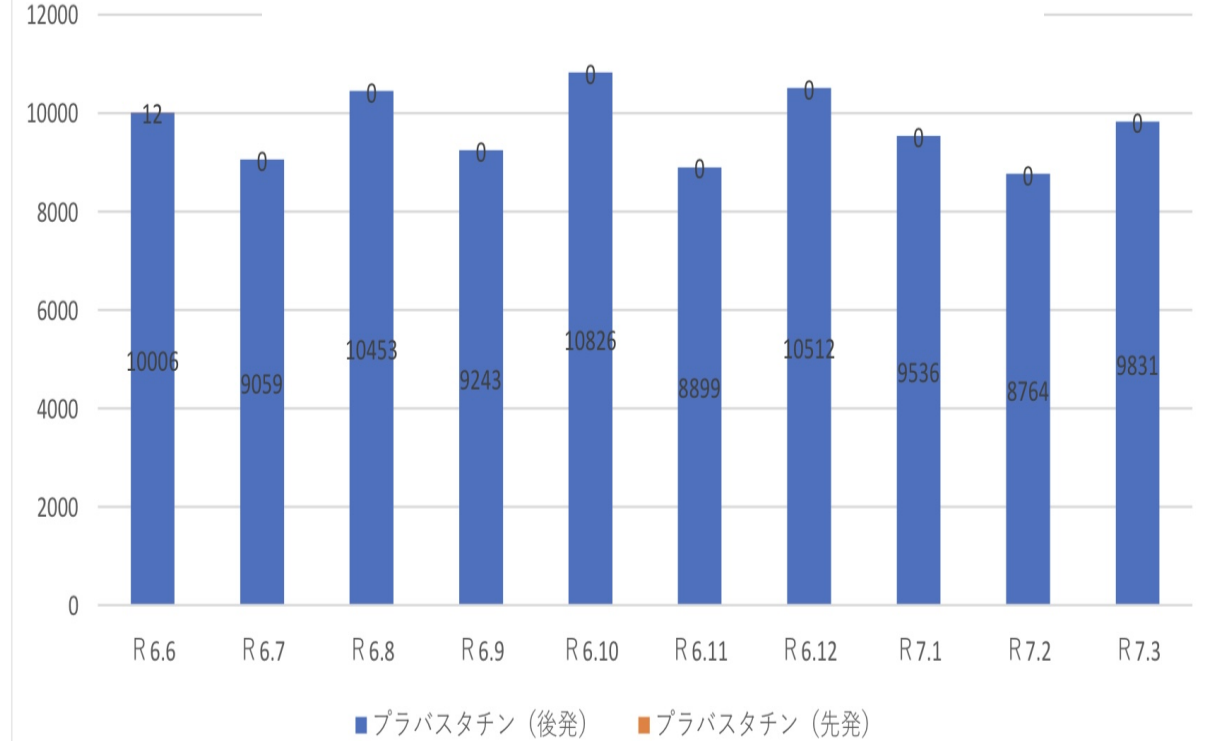
スタチン HMG-CoA還元酵素阻害剤処方数比較(4病院)

スタチン	各病院コメント
三次中央	スタチンに関しては、オプションであるプラバスタチン錠10mgの使用が急増していました。
三次地区医療センター	ロスバスタチン減少、プラバスタチン大きく減少。総数は減少しましたが、推奨薬の比率は上昇しました。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ロスバスタチン、プラバスタチンは増加

推奨薬



オプション薬

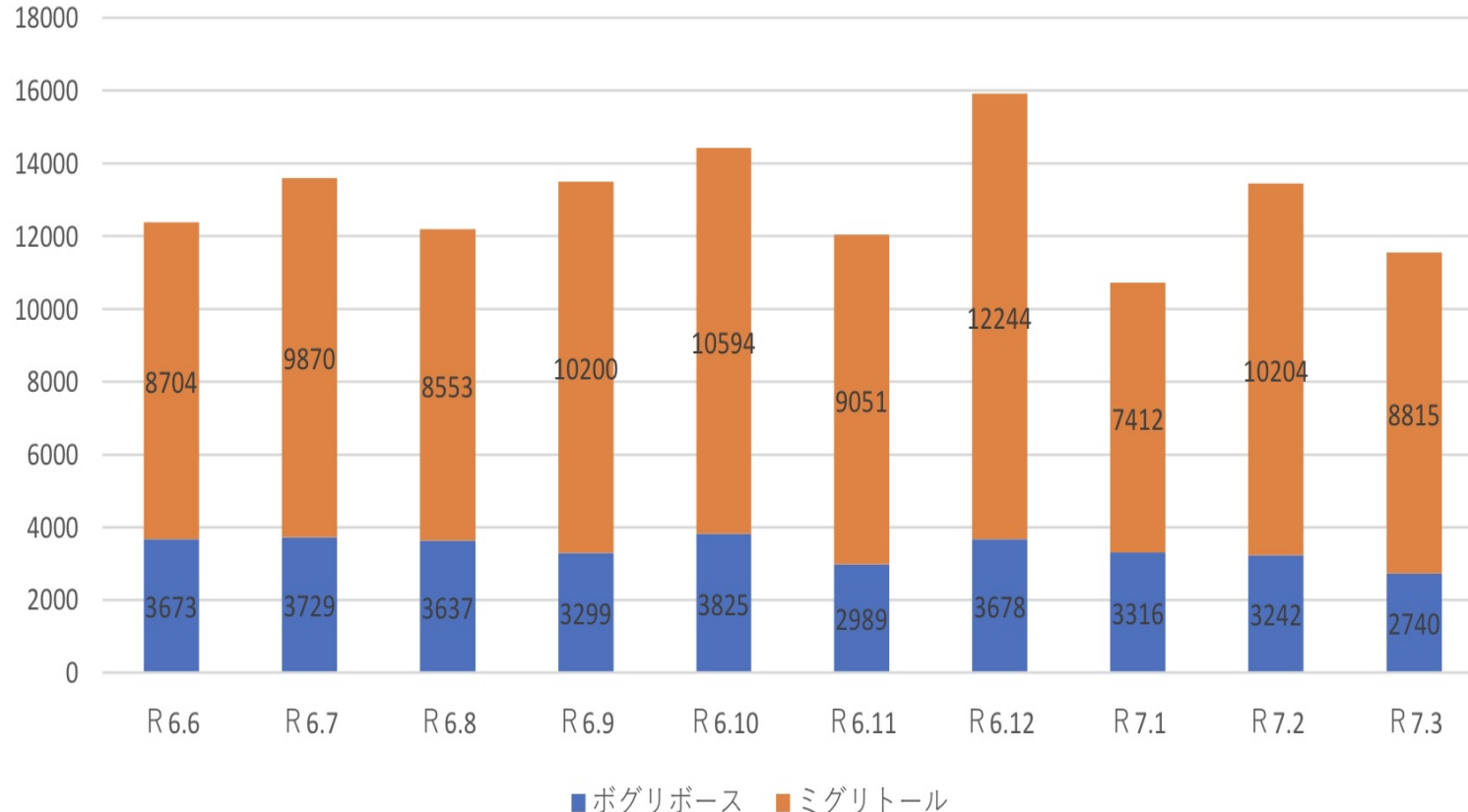


α-グルコシダーゼ阻害薬(2型糖尿病)(4病院)

2025年3月処方集計 (4病院)

α-GI	各病院コメント
三次中央	ミグリトールOD錠50mgの処方量は、全体的に緩やかな減少が見られます。
三次地区医療センター	先月と比較しほぼ変動なしです。
庄原赤十字病院	後発品の採用が実施されていない
西城市民病院	減少傾向

推奨薬(オプション薬なし)



◆その他の薬剤:アカルボースについて

アカルボースは、心血管イベントの抑制効果を検討した試験はあるが、副次的な評価であり、エビデンスレベルとしては低い¹⁾。また、耐糖能異常患者において2型糖尿病の発症抑制が示されているが、日本では適応がない。なお、2022年5月に先発医薬品であるグルコバイ錠、同OD錠の販売中止がアナウンスされた。現在は後発医薬品のみが流通しているが、国内における処方量は極端に少なく、推奨薬とはならない。

1) Jean-Louis Chiasson, et al. Acarbose treatment and the risk of cardiovascular disease and hypertension in patients with impaired glucose tolerance: the STOP-NIDDM trial. JAMA. 2003 Jul 23; 290(4):486-94. PMID: 12876091

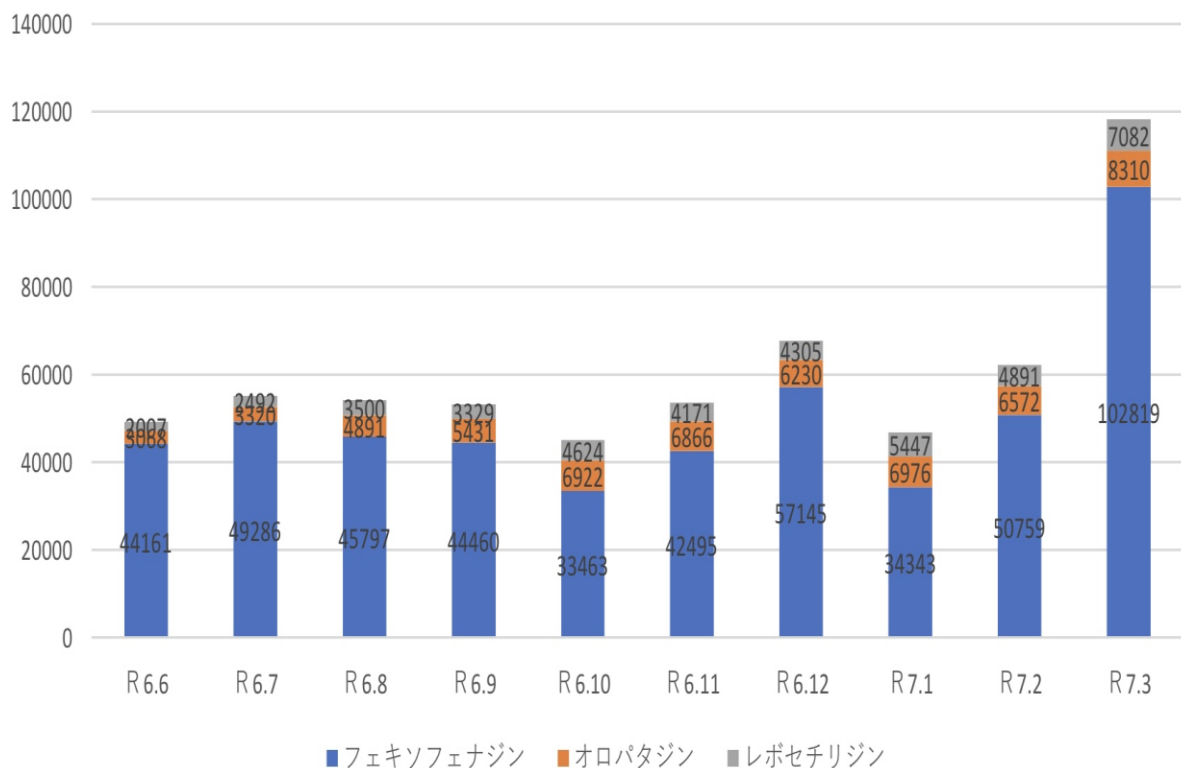
第2世代抗ヒスタミン薬処方数推移(4病院)

処方数減少(変動)は季節性要因によるものがあるが、全体的な変動としては少ない。

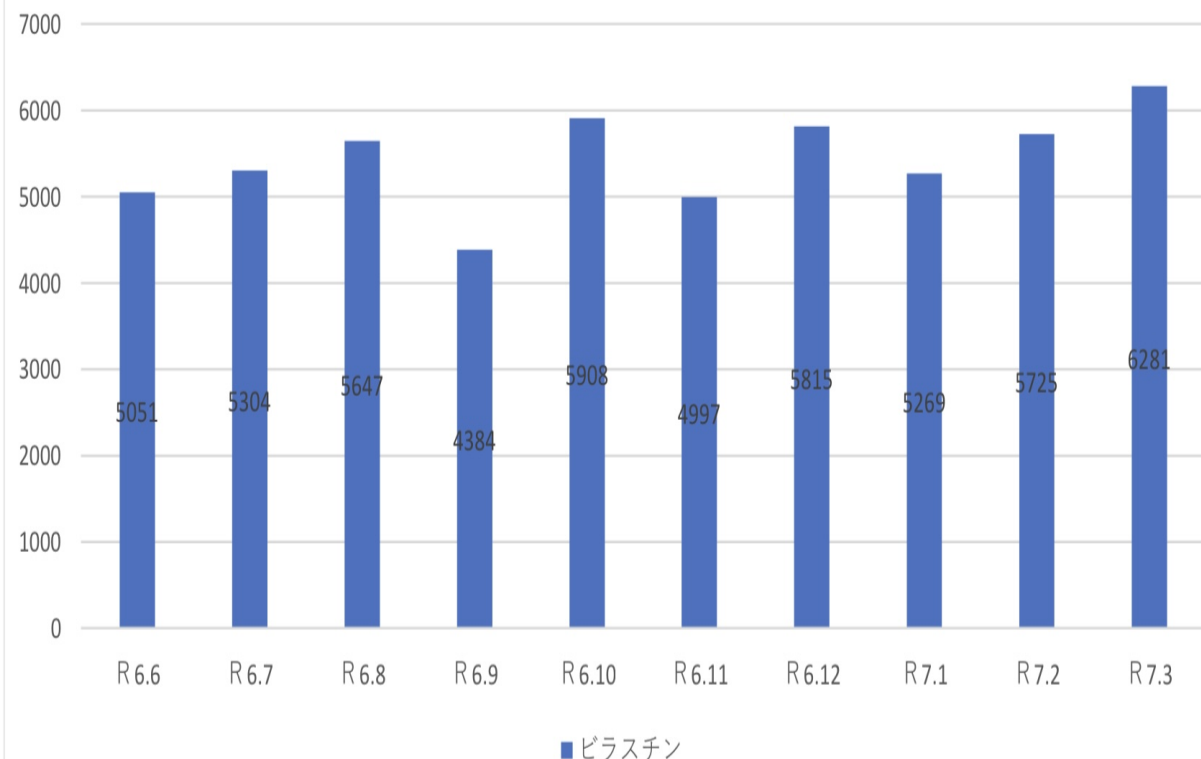
2025年3月処方集計(4病院)

抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	抗ヒスタミン薬に関しては、採用の5品目全てにおいて増加傾向が見られ、時期的にも相まって、フェキソフェナジンDS50%の処方量は急増していました。
三次地区医療センター	フェキソフェナジン・オロパタジンは減少、ビラスチンが大きく増加しています。
庄原赤十字病院	採用品目については順調に切り替えが行われ、現在は安定的に処方されている
西城市民病院	花粉症の時期でもあり、オロパタジンが前月の倍以上、レボセチリジンも増加しています。

推奨薬



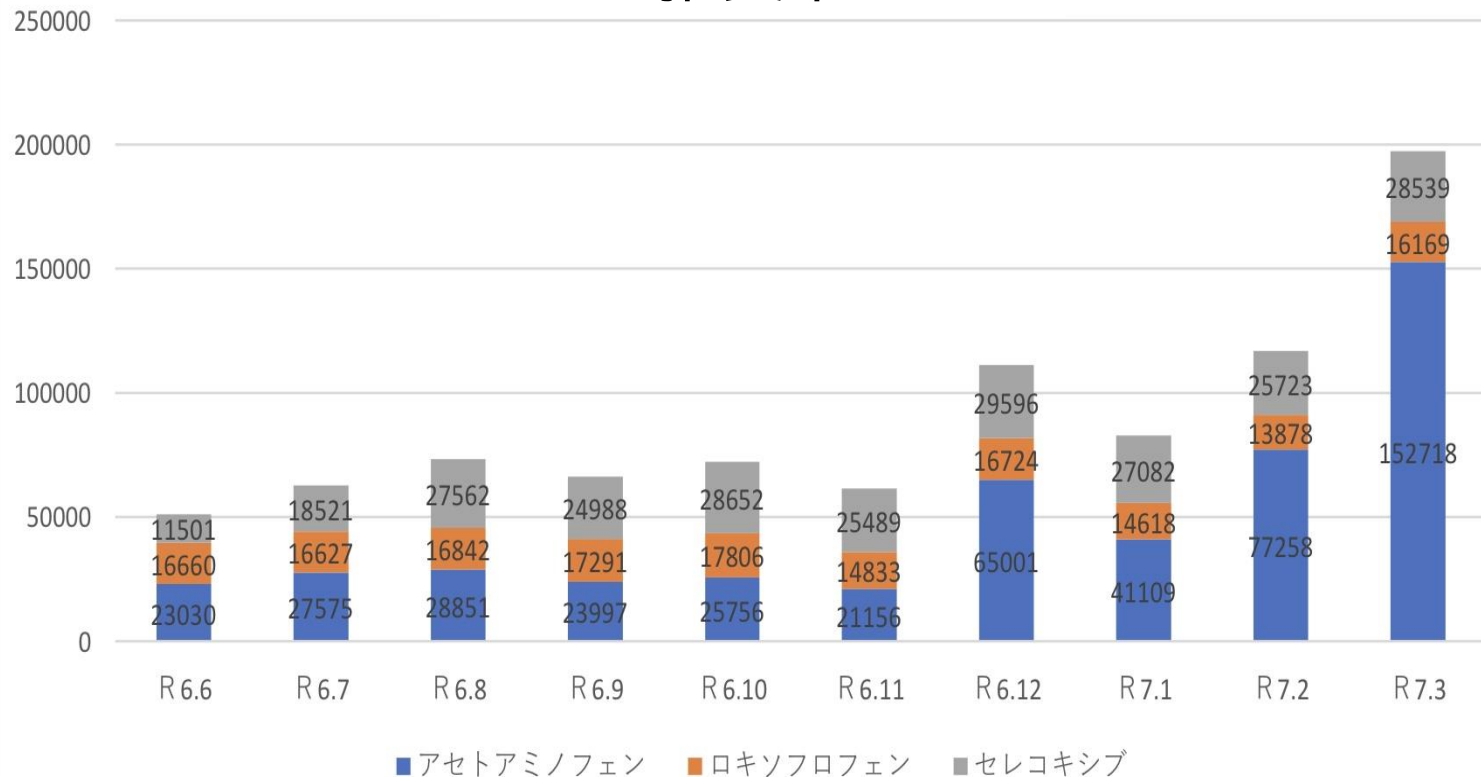
オプション薬



内用 消炎・鎮痛剤の処方推移(4病院)

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	アセトアミノフェン細粒の処方量が急増していました。(原因不明)
三次地区医療センター	アセトアミノフェンやや減少、ロキソプロフェンが半減しています。
庄原赤十字病院	一部の品目で後発品の採用が実施されていない
西城市民病院	セレコキシブの増加が目立ちました。

推奨薬



オプション薬

地域の特性から現在処方数推移の対象としていない

◆イブプロフェン、ナプロキセンは多くのガイドラインで使用が推奨されているが、当地域での使用量は今のところ少ない。頻用されるロキソプロフェン、セレコキシブの流通量からみれば、イブプロフェンは100分の1程度、ナプロキセン(ナイキサン)は400～500分の1である。

◆ジクロフェナクナトリウムは多くのガイドラインで推奨されている。COX-2選択性はセレコキシブと同程度と報告されている。坐剤、外用剤など複数の剤形を有するが、消化器系の副作用、心血管系有害事象に注意が必要である。また、ジクロフェナクナトリウムには徐放製剤(カプセル)があり、その用法・用量には留意が必要になる。通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5mgを1日2回食後に経口投与する。

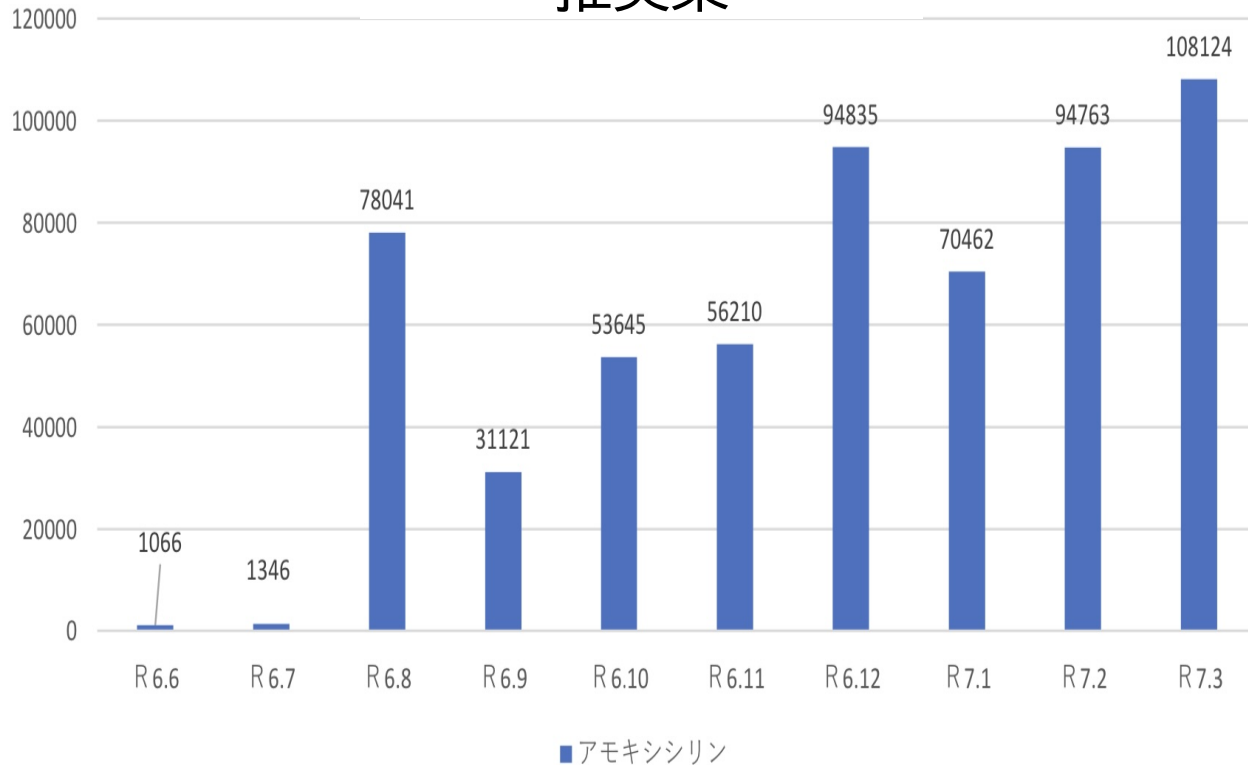
抜歯時・口腔領域小手術後の経口抗菌薬処方推移(4病院)

2025年3月処方集計 (4病院)

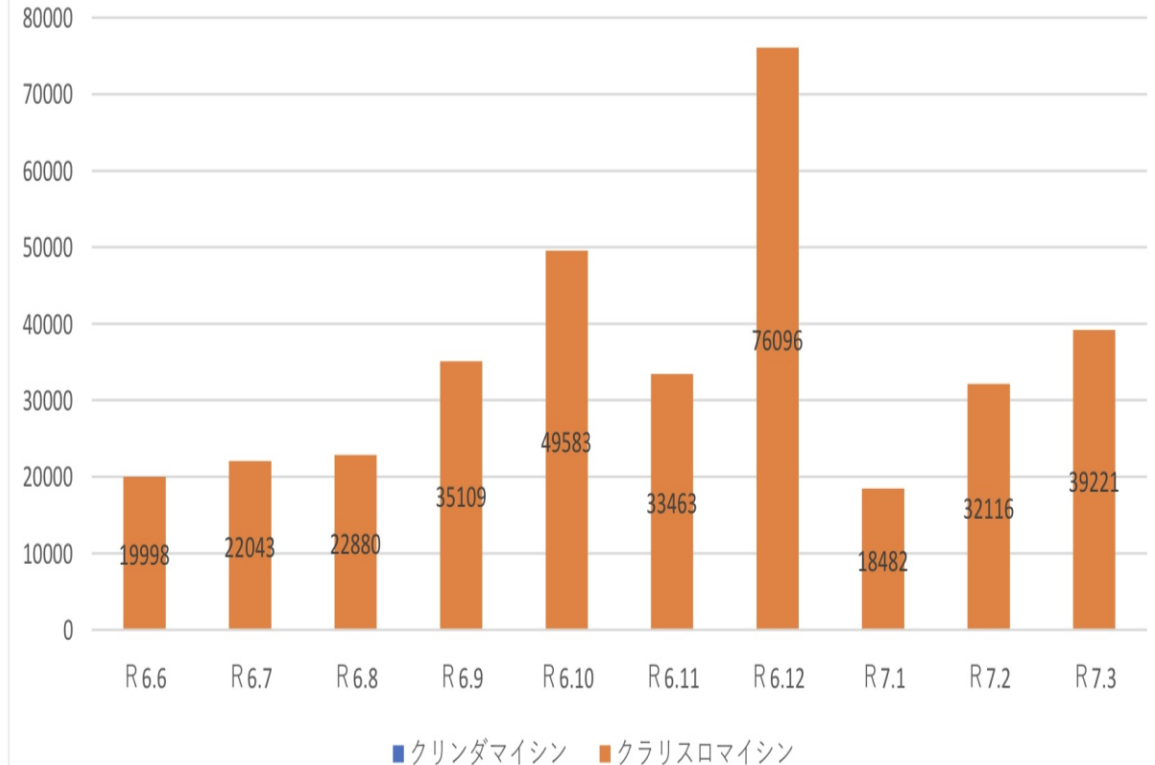
令和6年6月掲載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている。

歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	AMPC(推奨薬)もCAM(オプション)も増加傾向が見られました。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	一部の品目で後発品の採用が実施されていない
西城市民病院	クラリスロマイシンは減少

推奨薬



オプション薬



経口ビスホスホネート製剤 処方数推移(4病院)

令和6年6月掲載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている

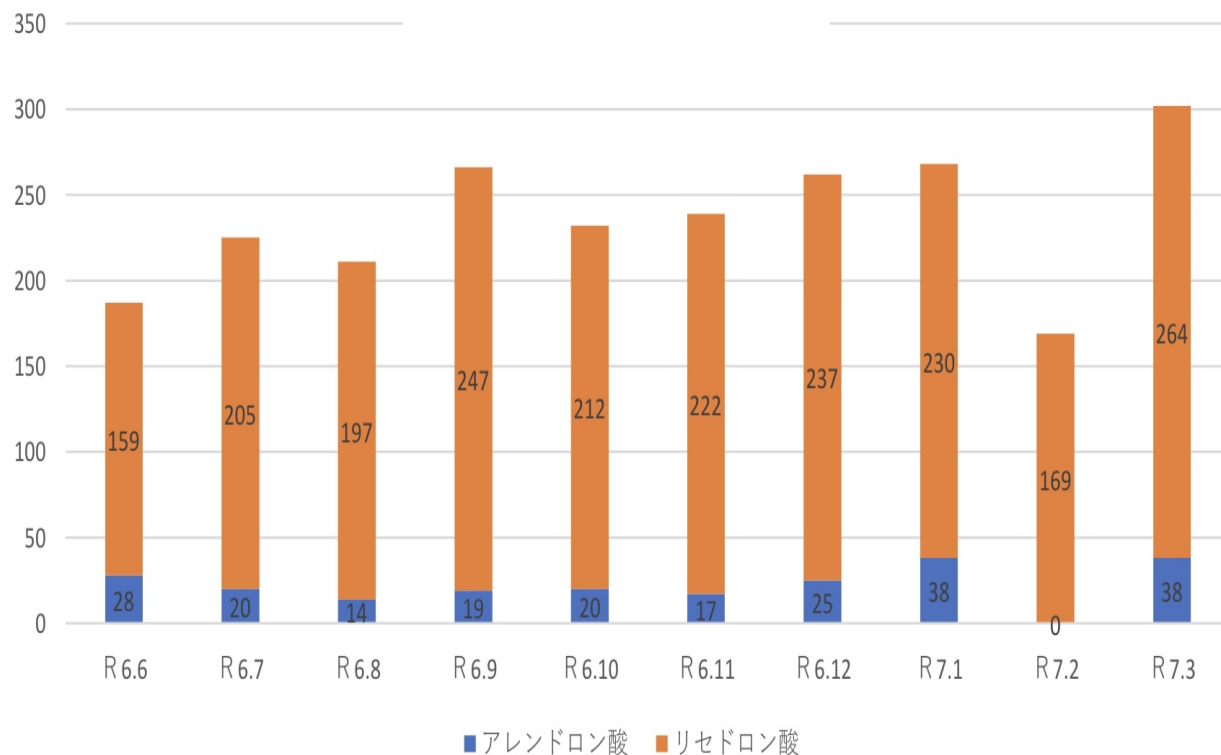
ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	当院においても2品目(推奨薬・オプション)の処方は、一定量使用されていると思います。
三次地区医療センター	アレンドロンはやや増加しています。
庄原赤十字病院	後発品の採用が実施されていない
西城市民病院	リセドロン酸Naが増加

オプション:ミノドロン酸

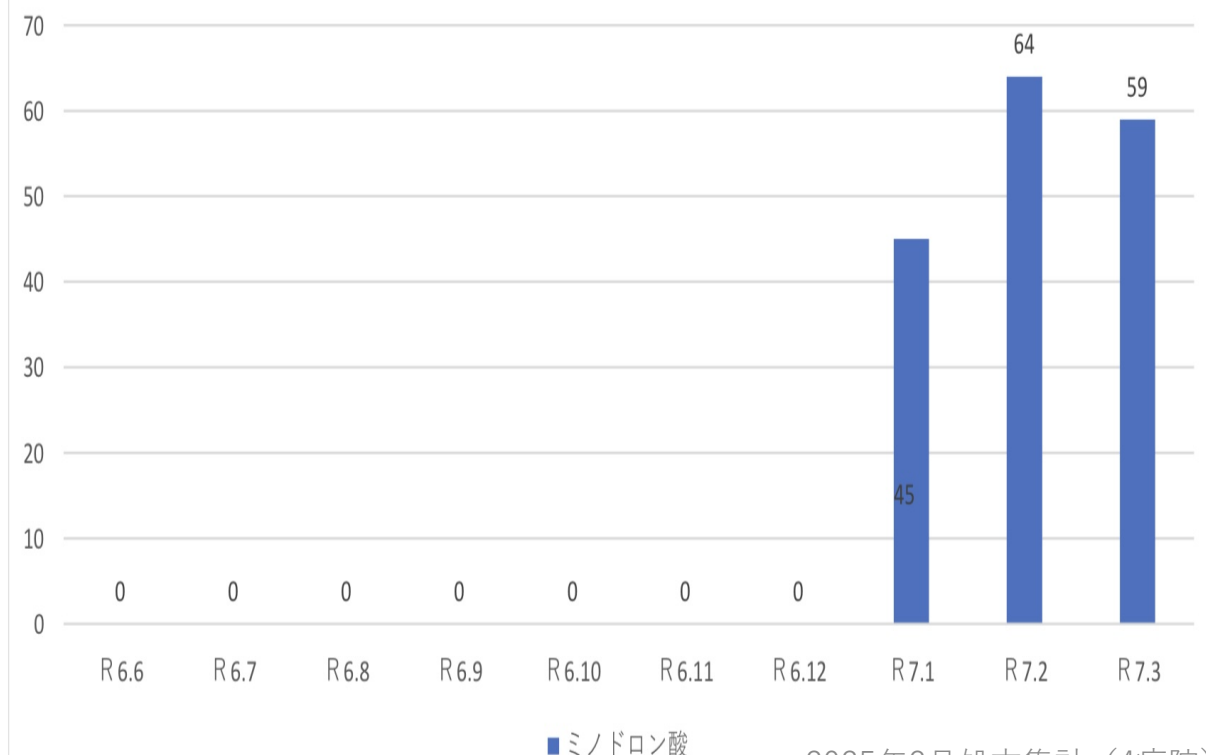
ミノドロン酸は推奨薬であるアレンドロン酸、リセドロン酸と比較して「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」では有効性の評価は他剤より劣る。

ミノドロン酸は日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一のビスホスホネート系薬剤であると評価されている。すでに後発品は発売されているものの、推奨薬より薬価が高いことから、オプションとしている。

推奨薬



オプション薬



2025年3月処方集計 (4病院)

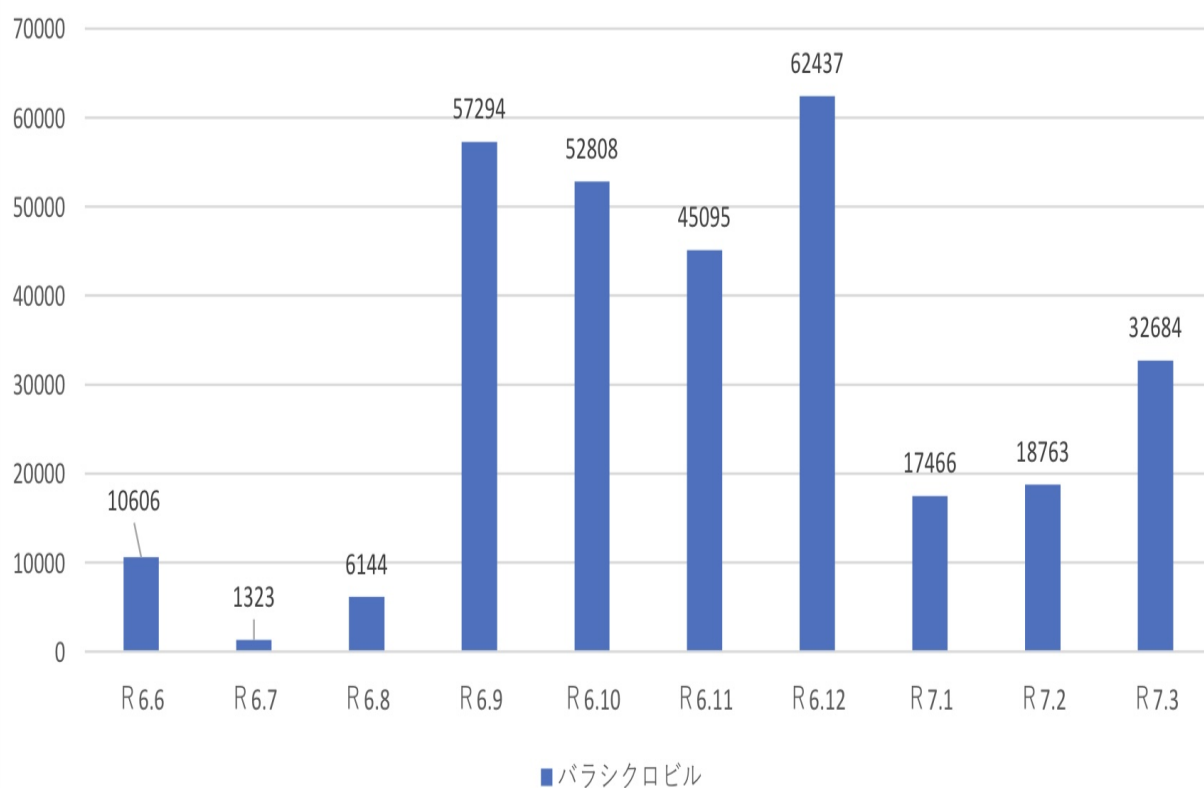
ヘルペス治療薬 フォーミュラリ(成人)処方数推移(4病院)

2025年3月処方集計 (4病院)

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている。

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	今年に入り増加傾向ですが、全体的には少ない時期だと思えます。
三次地区医療センター	単純疱疹で1例の処方あり。
庄原赤十字病院	使用量は多くないが、ヘルペスの治療に使用されるのはリストの品目のみ
西城市民病院	ファムシクロビルが増加

推奨薬



オプション薬

